

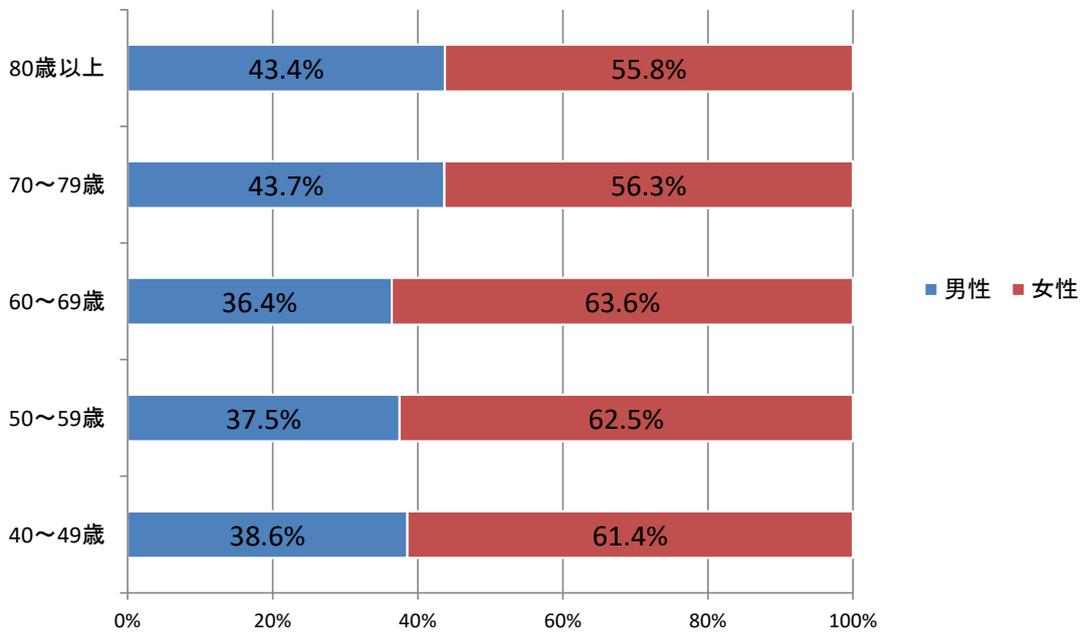
令和2年度 柳川市在宅医療・介護連携に関する 市民アンケート調査結果 (年代別)

令和3年5月集計

調査対象	市内在住の40歳以上の男女2,000人(男女比1:1)
抽出方法及び調査方法	無作為抽出後、郵送にて
調査期間	令和3年2月1日(月)～令和3年2月26日(金)
回答結果	回答数928人(回答率46.4%)

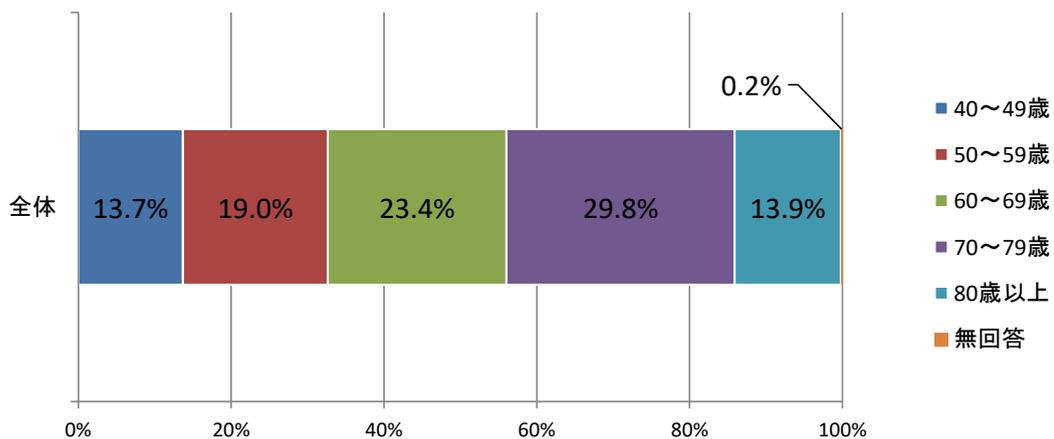
問1 あなたの性別

全年代を通じて、女性の回答率が高くなっています。70歳以上になると、男性からの回答率も上昇しています。



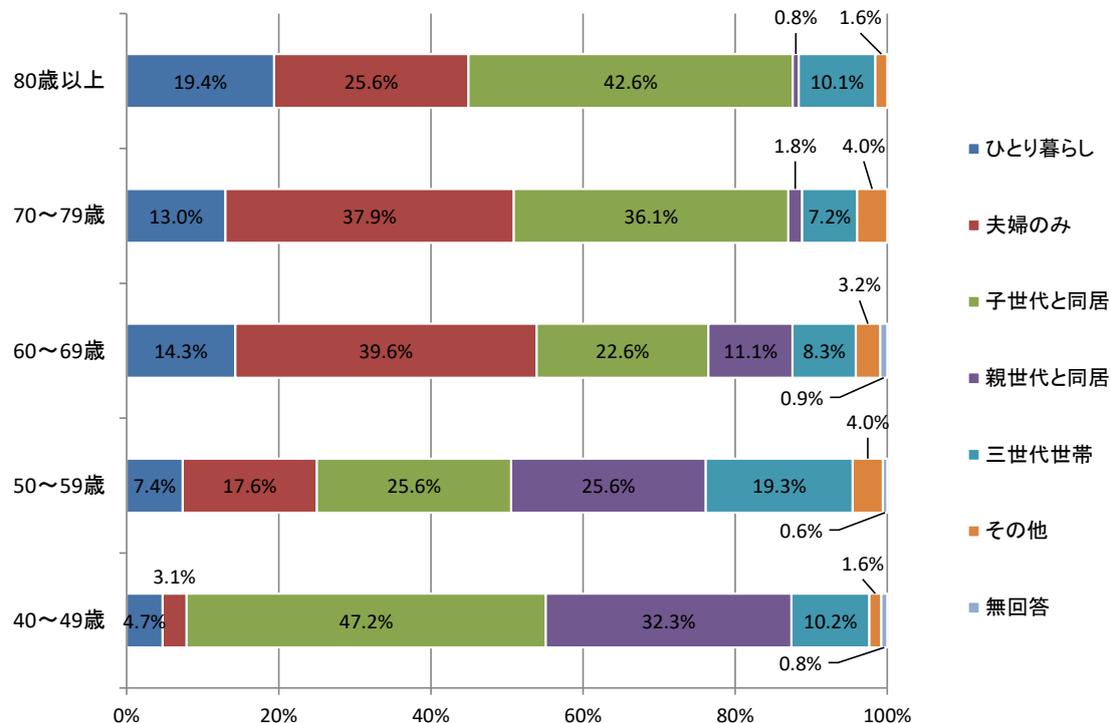
問2 あなたの年齢

60歳以上の方からの回答が全体の67.1%を占めています。年代別で言うと「70～79歳」の年代からの回答が一番高くなっています。



問3 あなたの家族構成

「60歳～69歳」、「70歳～79歳」の年代では、ひとり暮らしと夫婦のみの、いわゆる「高齢者のみ世帯」の割合が50%を超えています。「80歳以上」の年代になると、ひとり暮らしの割合が上昇してきていますが、同時に子世代との同居の割合も上昇してきています。データが不足しているので確認はできませんが、タイミング的に子世代の定年退職と親の介護が必要になってくる時期とが重なり、引き取りや再同居が増えたのも要因ではないかと思われます。



問4 お住まいの中学校区

60歳以上の回答率が一番高かったのが大和中学校区で、一番低かったのが蒲池中学校区となっています。



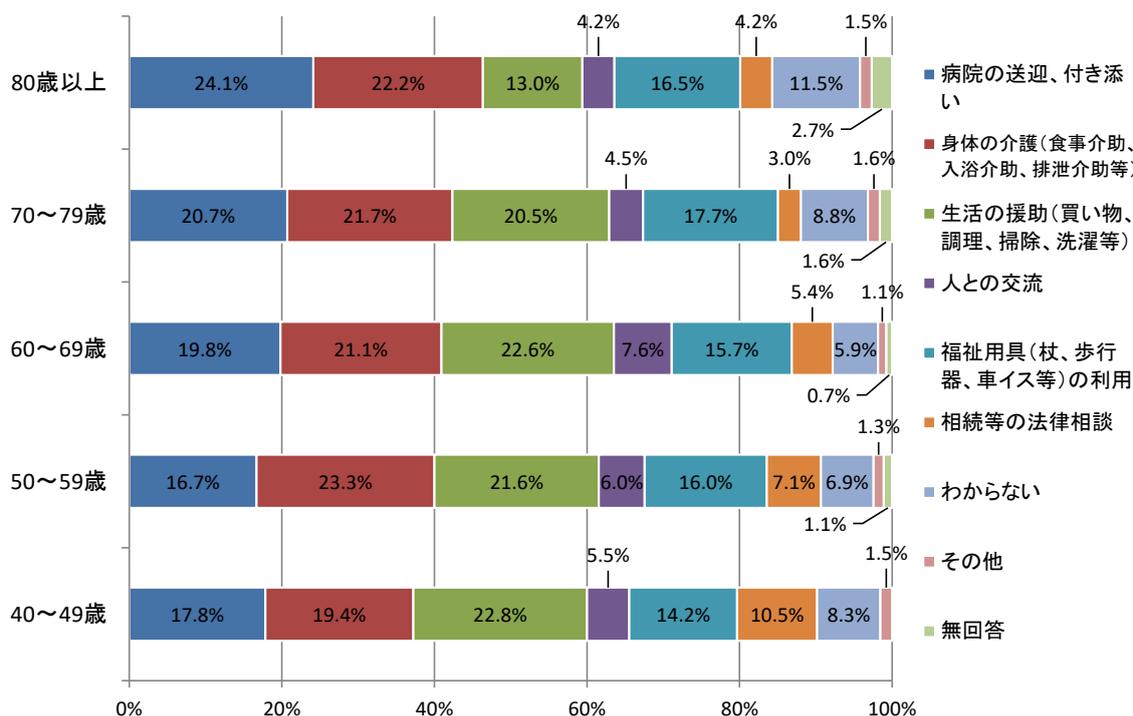
問5 あなたは自宅で受けられる「医療」や「介護」のサービスを知っていますか(複数回答)。

全年代を通じて、訪問介護のサービスを知っていると回答した方が多く、次いで、往診、訪問看護、訪問入浴介護、訪問診療のサービスを知っていると回答した方が多くなっています。
 ただ、全年代を通じて、「わからない」と回答した割合が5%前後あり、「80歳以上」では、8.5%と高くなっています。楽観的視点で見れば、現在も元気で、こういったサービスが必要ないので知らないということもあるかもしれませんが、逆に医療サービス、介護サービスの制度周知が浸透しきっていないとも考えられます。



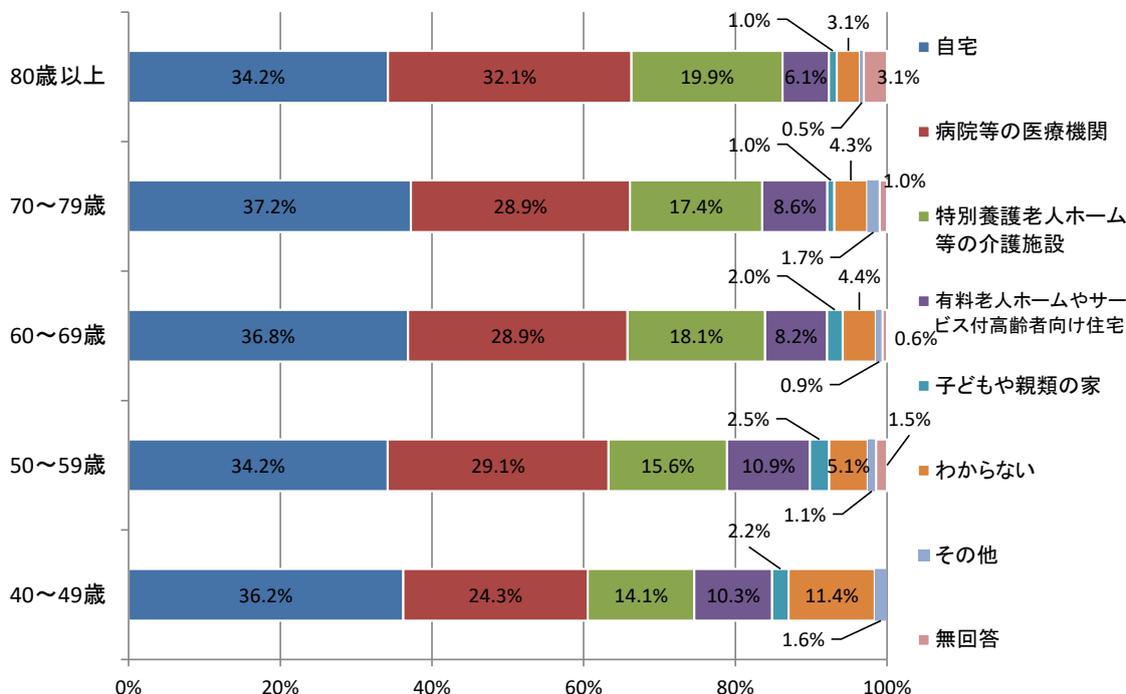
問6 あなたは、病気が治る見込みがないと告げられた場合、どのような援助を受けたいですか(複数回答)。

年代が上がるにつれて「病院の送迎、付き添い」の援助を受けたいと回答した方が多くなり、逆に「生活の援助」を受けたいと回答した方が減少しています。全年代を通じて「身体の介護」の援助を受けたいと回答した方が多くなっています。
 「生活の援助」が減少している要因は、問7との関連で最期は医療機関や介護施設と回答された割合が38%～52%と高くなっているため、自宅生活に必要な買い物、調理等が必要なくなるのも要因の一つとして考えられます。



問7 あなたは、病気が治る見込みがないと告げられた場合、どこで生活したいと思いますか(複数回答)。

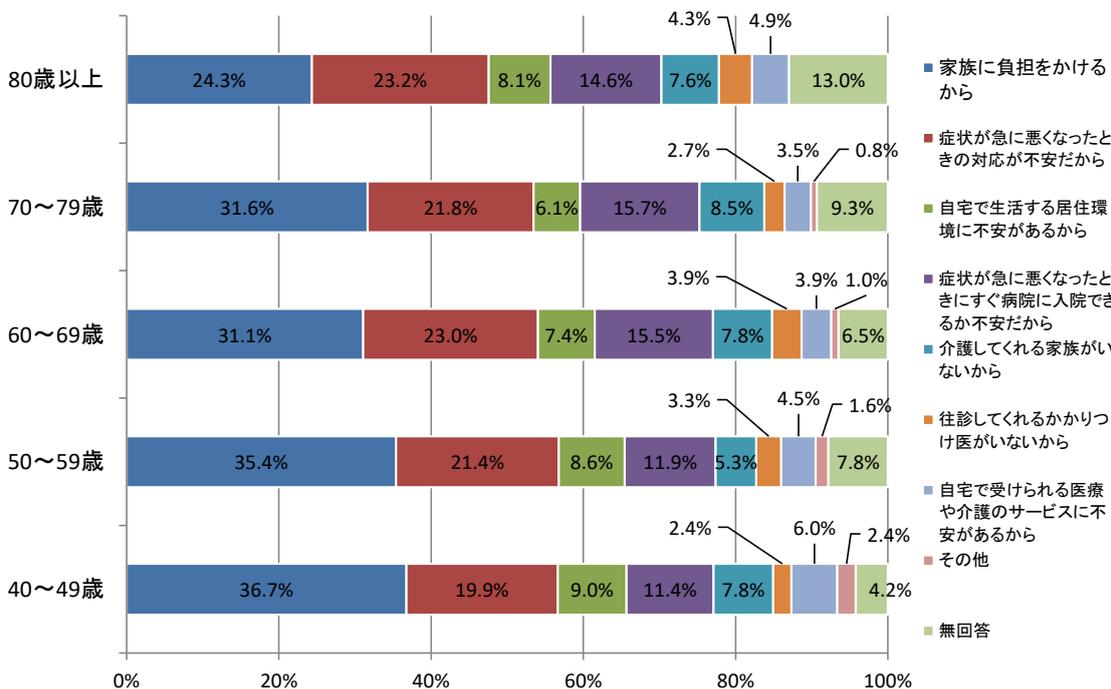
全年代を通じて「自宅」と回答した方が一番多く、次いで「病院等の医療機関」、「特別養護老人ホーム等の介護施設」の順となっています。しかし、「80歳以上」の年代では、「自宅」がやや減少し、「病院等の医療機関」、「特別養護老人ホーム等の介護施設」が高くなってきています。
 全年代、「自宅」以外を選択した割合は65%前後となっています。問8との関連で、将来の看取りのビジョンに不安要素が多いのがこの結果になったと思われます。



問8 自宅で生活したいと思わない理由は何ですか(複数回答)。

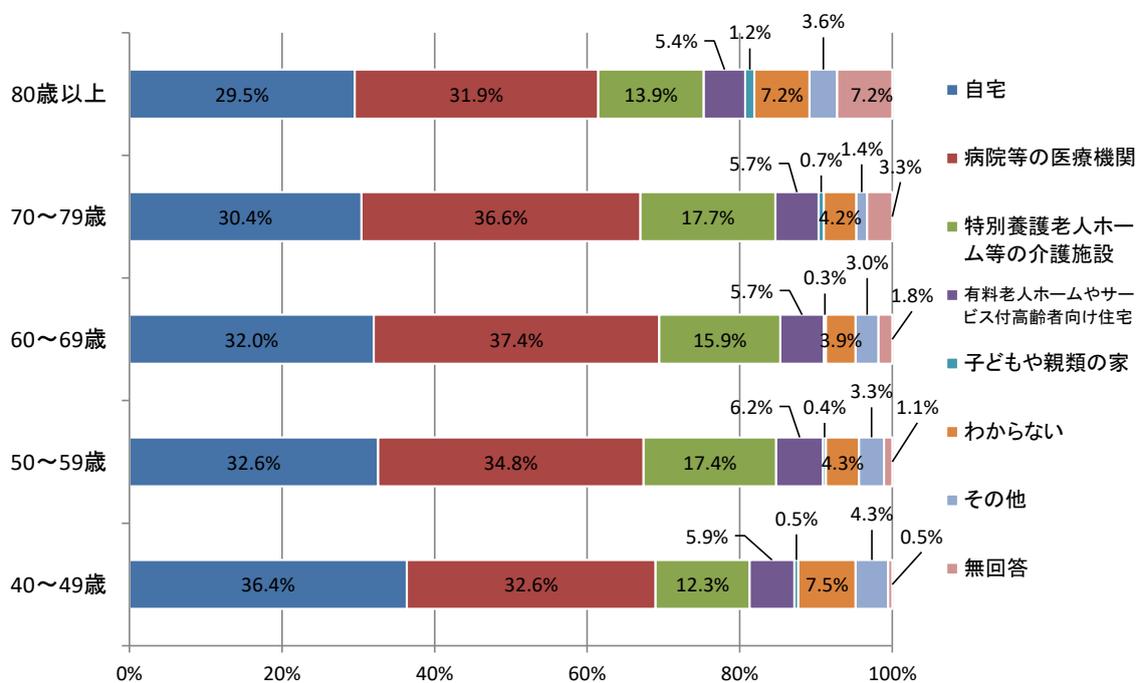
※問7で「自宅」以外を選択された方のみ回答

年代が上がるにつれて「症状が急に悪くなったときの対応が不安だから」と回答した方が多くなり、逆に「家族に負担をかけるから」と回答した方が減少しています。



問9 あなたは、あなたの家族の病気が治る見込みがないと告げられた場合、あなたの家族をどこで生活させたいと思いますか(複数回答)。

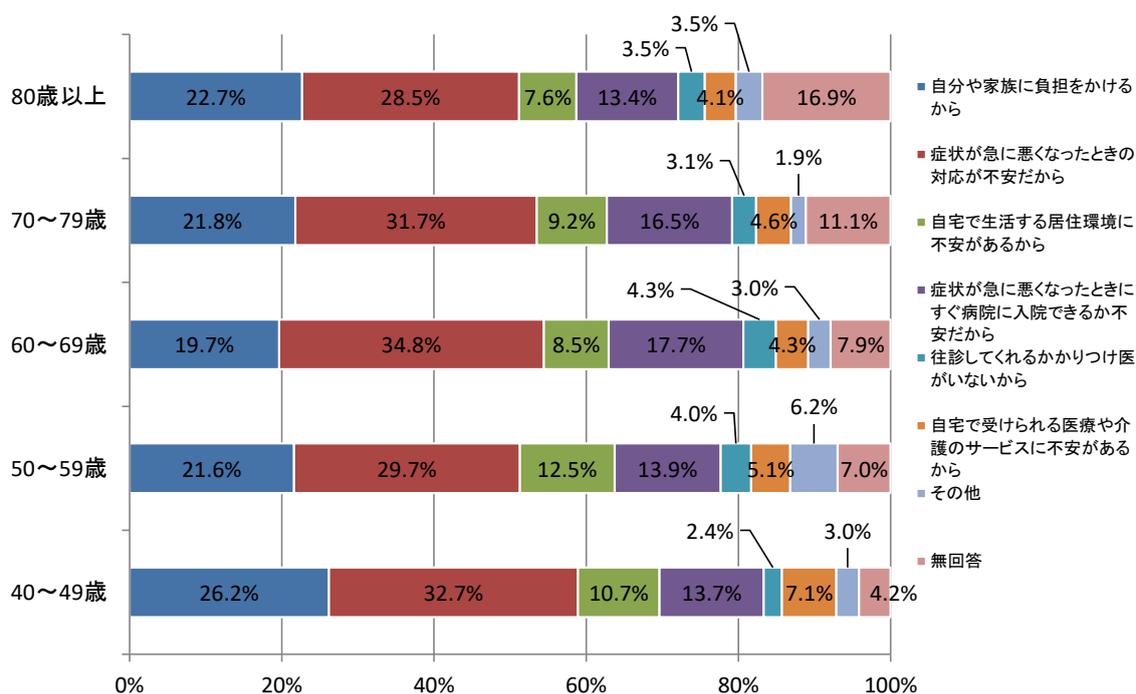
「自宅」と回答したのは「40～49歳」の年代が一番多く、年代が上がるにつれて「自宅」と回答した方は減少しています。問7のご自身の場合の結果とは逆になっています。ただ、全年代を通じて、「病院等の医療機関」が30%を超えており、問10との関連で、将来の看取りのビジョンの不安要素が、ご自身よりも家族に対しては、より大きいのがこの結果になったと思われます。



問10 あなたの家族を自宅で生活させたいと思わない理由は何ですか(複数回答)。

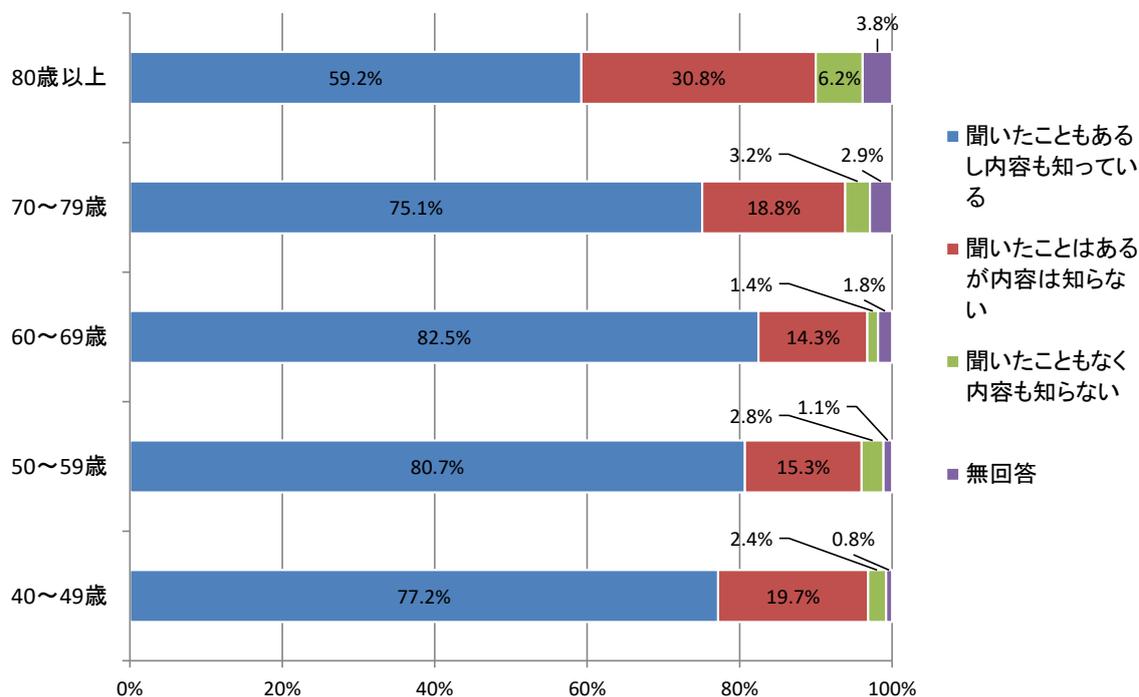
※問9で「自宅」以外を選択された方のみ回答

全年代を通じて「症状が急に悪くなったときの対応が不安だから」と回答した方が多く、次いで「自分や家族に負担をかけるから」と回答した方が多くなっています。



問11 あなたは「延命治療」のことを知っていますか。

「60～69歳」の年代が「聞いたこともあるし内容も知っている」82.5%で一番高く、「80歳以上」の年代は59.2%と一番低い値となっています。



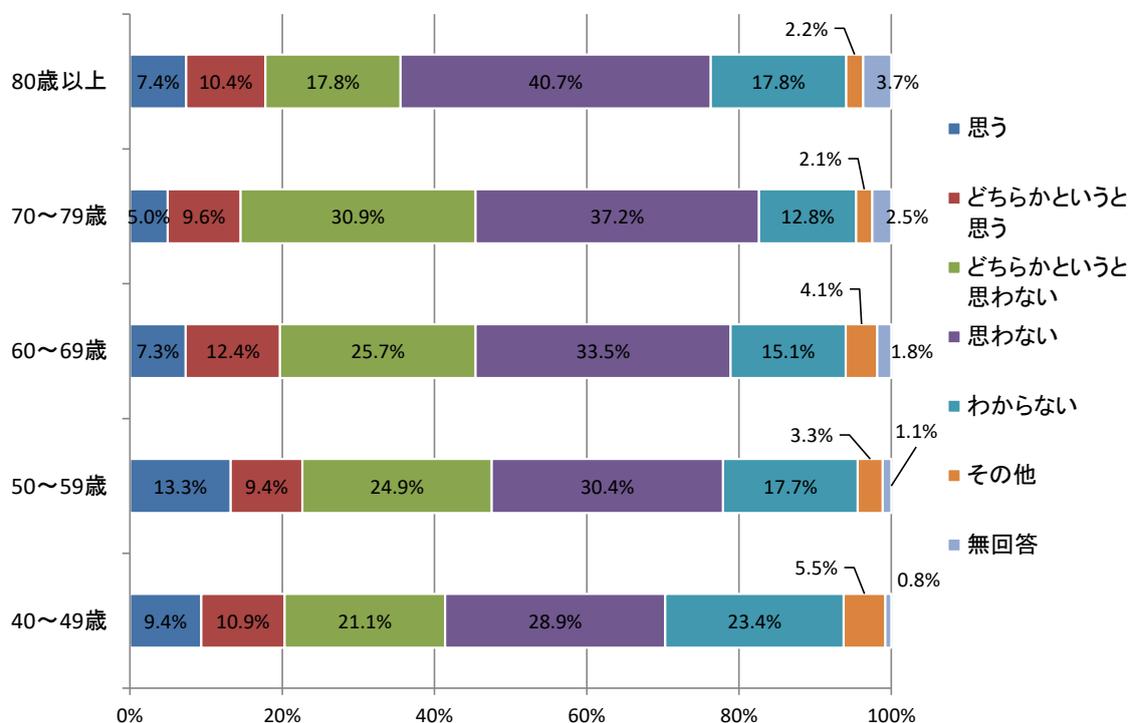
問12 あなたは、病気が治る可能性がなく、「数週間～半年程度で死を迎えるだろうと予想される」と診断されたとき、延命治療を望みますか。

全年代を通じて、50%以上の方が「延命治療を望まない」と回答しています。「どちらかという望まない」を合わせると、80%の方が「延命治療は望まない」と回答しています。



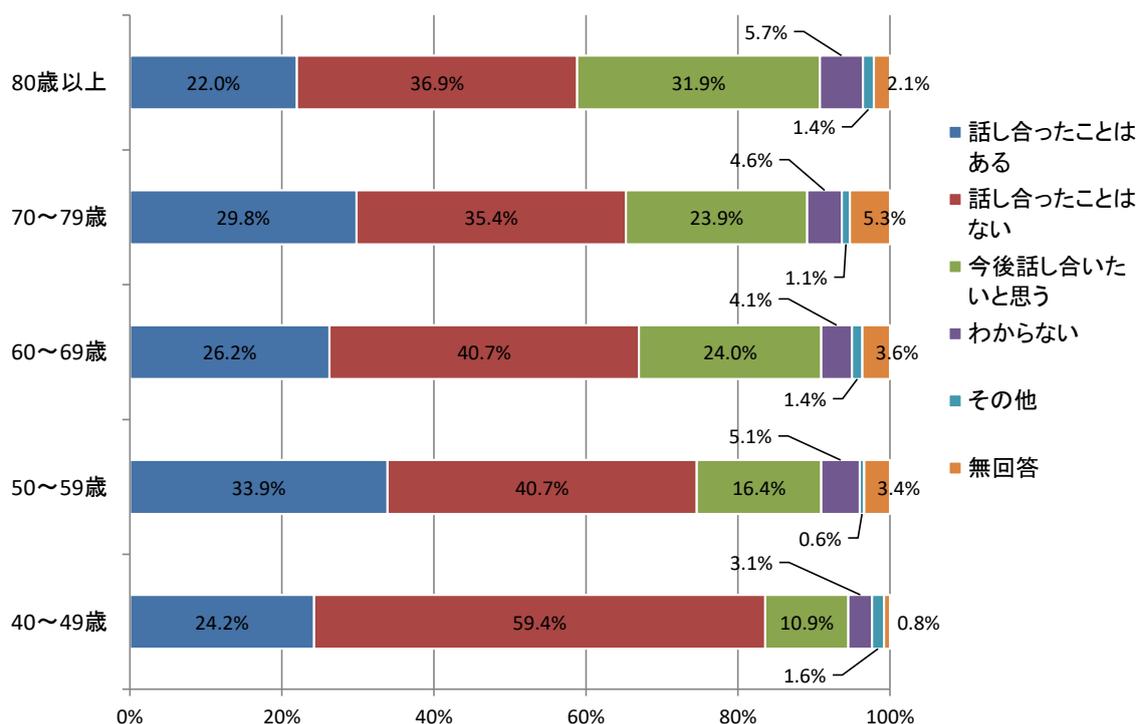
問13 あなたは、あなたの家族の病気が治る可能性もなく、「数週間～半年程度で死を迎えるだろうと予想される」と診断されたとき、延命治療をさせたいと思いますか。

全年代を通じて、約30%～40%の方が「家族の延命治療をさせたいと思わない」と回答しています。「どちらかというと思わない」を合わせると、50%～60%の方が「家族の延命治療をさせたいと思わない」と回答しています。問12と照らし合わせると、ご自身の想いと家族に対しての想いには、ギャップがあることがわかります。



問14 あなたは、病気が治る見込みがないと告げられたときのことについて、家族と話し合ったことがありますか。

全年代を通じて、「話し合ったことがない」と回答した割合は35%～59.4%あり、「今後話し合いたいと思う」を加えると、57.1%～70.3%となり、終末期について、家族と話し合っていないことが浮き彫りとなっています。デリケートな内容であることから、自ら言い出しにくい…、将来のことだから今はまだ…、といったお考えの方が多くはとされます。



問15 あなたやあなたの家族が、自宅や施設で療養したい(療養させたい)と思った時に、どこに(誰に)相談したいと思いますか(複数回答)。

全年代を通じて「家族に相談したい」と答えた方が一番多く、次いでケアマネジャー、または病院の順序となっています。生活している中で、現に接する機会が多い方へ相談する傾向が強いです。



問16 あなたは、あなたの家族が認知症と診断を受けた場合、どこに(誰に)相談したいと思いますか。(複数回答)

全年代を通じて「家族に相談したい」と答えた方が一番多く、次いでケアマネジャー、または病院の順序となっています。生活している中で、現に接する機会が多い方へ相談する傾向が強いです。



問17 あなたやあなたの家族が認知症と診断を受けて、自宅で生活をする場合、どのような支援が必要だと思いますか(複数回答)。

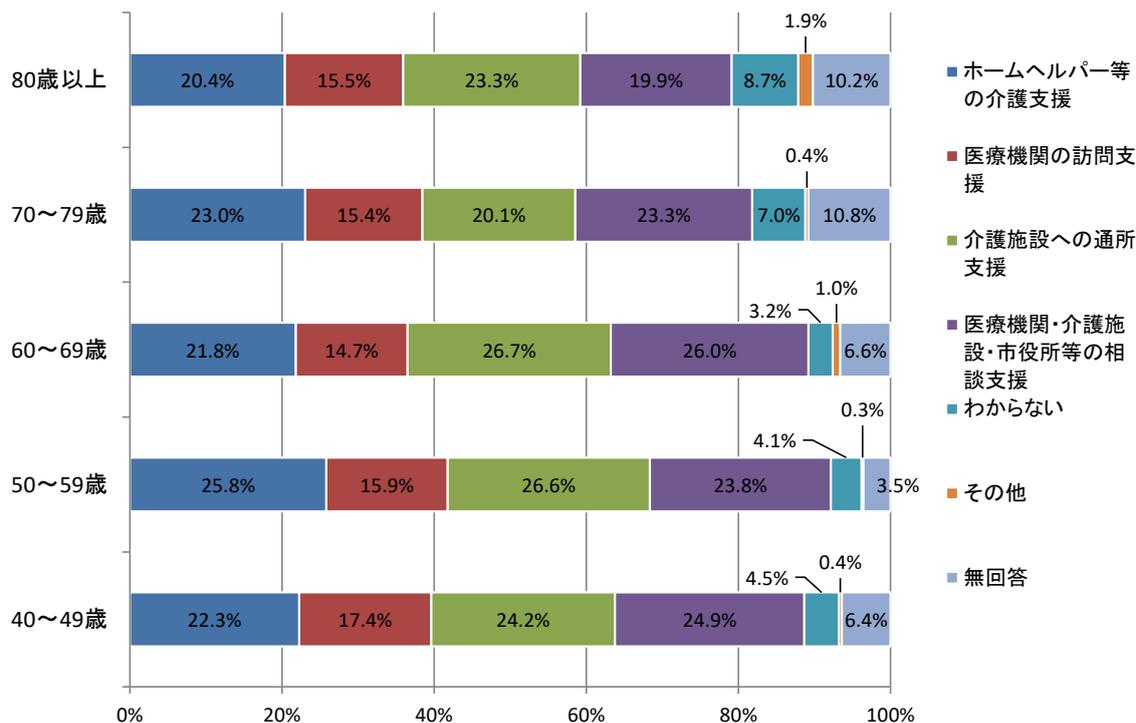
①家族の支援

全年代を通じて「食事・入浴等の介助」と回答した方が一番多く、次いで「服薬の管理」「金銭の管理」と回答した方が多くなっています。



②家族以外の支援

「40~49歳」、「70~79歳」の方は医療機関・介護施設・市役所等の相談支援」と回答した方が一番多く、「50~69歳」、「80歳以上」の方は「介護施設への通所支援」と回答した方が一番多くなっています。



アンケート各設問(問1～問17)を通じて見えてきた市の課題

各設問分析結果を通して、全体からの考察を記述いたします。

その前に国と本市の高齢者の現状、それから、今回のアンケートの目的について、少し説明いたします。

2007年に高齢化率が21%を超え、日本は「超高齢社会」を迎えました。その後も高齢化率は上昇の一途を辿り、2020年には28.7%となっています。柳川市においては、既に33%を突破しています。これは、国全体の推計値より約20年先進んだ数値であり、医療の進歩、少子化、大都市への人口流出など様々な要素が絡み合い、高齢化率が上昇しています。

高齢化率の上昇により、65歳以上の一人暮らし世帯や夫婦のみの世帯が増加していくことが予測されると共に、介護や医療を受ける人の割合も増加していくことが考えられます。このような背景を踏まえて、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、「住み慣れた地域でいつまでも心豊かに暮らすことができる」よう、地域における医療・介護の関係機関が連携して、「丸ごと」かつ「持続的」な在宅医療・介護を一体的に提供する支援・連携体制をどう構築していくかを目的として、その入り口部分である、「自宅でも受けれる医療や介護サービスの認知がどの程度浸透しているのか。」、「人生の最期をどんな形で迎えたいのか。」をご自身の想い、ご家族の想いを知るためにアンケートという形で実施させていただきました。

それでは、ここから全体考察に入ります。

アンケートの内容から、やはり、60歳以上からの回答が過半数以上を占めていました。家族構成からも見ても、ひとり暮らし世帯や夫婦のみ世帯といった高齢者のみ世帯からの回答率は高く、「誰もが将来必ず避けては通れない事」であることをより意識されているのではないかと推測されます。

「医療」や「介護」の認知度は、全年代に大きな差はありませんでした。制度の周知は一定程度は浸透していると考えられます。しかし、「わからない」と回答した割合は、5%前後あり、80歳以上の年代にいたっては、8.5%と全年代の中で最上位となっています。介護保険の認定申請実績では、75歳以上の申請割合は、65歳～74歳までの申請割合と比べて約10倍に跳ね上がります。すなわち、医療も比例して受診率が高まりますので、医療と介護の両方を必要とする年代は、80歳以上はもっと高くなることが予測されます。まず、これが市の課題の一つ、後期高齢者への周知強化と考えます。

次に、「病気が治る見込みがないと告げられた場合」という終末期に関する設問で、ご自身に対しての想いと、ご家族に対しての想いに特徴的な回答が見られました。ポイントだけいえば、ほぼ全年代通して、ご自身に対しての場合は、医療機関よりも自宅で過ごしたいと回答された方が多く、それに対し、ご家族に対しての場合は、自宅よりも医療機関で過ごさせたいと回答された方が多く、両者反対の考えがうかがえました。自宅以外を選択された理由も両者反対の考えがうかがえます。ご自身に対しての場合は、「家族に負担をかけるから」が一番多く、ご家族に対しての場合は、「病状急変時の対応不安」が一番多くなっています。両者の回答から見えてくることは、ご自身は、できるだけ自宅で生活をしたい。けれども、家族に負担をかけるようなら医療機関で、とご自身のことよりも家族のことを思いやっての意識が強いように思われます。逆に、家族に対しては、自宅介護負担よりも急変時の不安により医療機関で、と命を優先する意識が強いように思われます。これは、延命治療に関する設問でも顕著に表れています。この意識の違いのギャップは、問14の設問からもわかるとおり、家族間の話し合いが、まだ十分になされていないことが要因であることが明白です。ご本人や家族が望む「住み慣れた地域でいつまでも心豊かに暮らすことができる」を実現するためには、このギャップ解消が市の二つ目の課題と考えます。

次に、相談支援に関する設問では、直接関わりのある家族や医療機関、ケアマネジャー(介護)が大部分を占めています。まずは、身近な方(機関)に相談という傾向が全年代を通じてうかがえます。公的機関が10%前後と低い傾向にありますが、この数値を上げることを市の課題とするのもありかもしれませんが、誰がどこに相談しても、誰から相談されても、回答へ導けるための情報が得られるような環境づくり(情報の浸透・普及)や二次相談先として充実させていくのも一つの方策としてありえるかもしれません。

最後に、認知症への支援として、金銭管理や家事支援、介護支援が挙げられていますが、自宅で生活することを前提とした場合、アンケート内には回答を設けていませんでしたが、「見守り」も明記しておくべきだったのではと考えました。24時間365日、家族が見守るには限界があります。一人暮らし高齢者にいたっては、近所や地域の力が必要になると思われます。公的機関や専門職による制度に基づくサービスや支援(＝フォーマルサービス)だけではなく、家族、近隣、友人、民生委員、ボランティア、NPOなどの制度に基づかない支援(＝インフォーマルサービス)も充実させていかなければならないと感じました。

問18 住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるために、必要と思われることやご意見・ご要望がございましたら、ご記入ください。

【住み慣れた地域での暮らしに関すること】

・自宅で介護をうけられるように家族の負担をへらしながら自分らしく暮らしたい。認知症になった時は、優先的に施設に入れるようにしてもらいたい。認知症になったら家で見るのは無理があると思う(60代男性)。

・夫婦二人で住んでいます。子供達はそれぞれ県外に住んで家庭を持っています。子供達の世話にならないで住み慣れた自宅で最後まで生活できれば幸せと思いますが、体が動かなくなると、果たして自宅で生活を続けて行けるかどうかとても不安になります(60代女性)。

・趣味を持って人と交わり自分を失わないで生活してゆければ・・・と願っていますが、長生きすれば家族、回りの人の手を借りなければならないのが現実。健康でありたいというのが祈りです。最後は福祉の方々にお世話になることになると思われます。その折には”やっかいなおばあちゃん”でないようにと願っています(70代女性)。

・自分らしい暮らしがどんなものか、いまひとつピンときませんが、自分が行きたい所に行ける、やりたいことができるとういと思います(50代女性)。

・79歳。夫婦共に健康で過ごしている。グラウンドゴルフ等、会話など交流が出来てまだまだ元気でいきそう。でもゆくゆく体が弱ったら、介護施設でみてもらいたいと思っている(70代男性)。

・自分の体が動ける今から出来る事は体を動かして体力をつける。仕事、家事、農作業は出来る限り続ける(70代男性)。

・趣味をみつけること。近くに親しい友人をつくること(50代男性)。

・現在の自宅が借家(アパート等)の場合、自分らしい暮らしを望んではいても、なかなか難しい問題があると思います(50代女性)。

お近所とのおつきあい、友だち。健康についての知識・運動。自分でくらすための衣・食の買い物ができる近くのお店(70代女性)。

・自活できる人生でありたい。自活出来ず寝たきりになったら、終末医療を願いたい(70代男性)。

・今は別に考えていません(60代女性)。

・公的な生活への支援やコミュニケーションがとれる生活環境。まず自分自身が豊かな生活とは何か考える。その生活を続けるために心身健やかに過ごすことが必要。公的な体育館、公民館、図書館など利用し、人との会話もし、元気で暮らせるようにします(60代女性)。

・お茶飲み友だちを作る事。簡単な趣味を持つ事。歌番組やお笑い番組を見てのんびり暮らす事だと思う(60代女性)。

いずれ自分の身にふりかかる問題ですが、子供に迷惑をかけたくないとは常々思っています(70代女性)。

・趣味、ボランティア地域活動を通して、出会いを大切に、日々楽しく過ごせるように、自分自身を高めていくことが大事であると思う。後悔のない人生を送れるよう、常に新しいことに挑戦していくことは脳活に良いのではと思う(70代女性)。

人生の最期まで自分らしく、人生の締めくくりとし→尊厳死。家族に迷惑をかけたくない。ホスピス→希望(70代男性)。

・毎日を明るく楽しくできるだけ人との話しをする様に心がけたいと思います。・自分の身に廻りのことは自分でするようにしたいと思います(70代女性)。

・第一には家族の思いやりが大切だと思います。施設でも家での生活でもそうだと思います(60代女性)。

・あまり長生きは望みません(80代以上男性)。

・住み慣れた地域で最後まで生活したいと思っています。高齢になれば地域の役を引かせていただきたいと思っても、現実問題はそうはいかない様です。今は元気ですが、安心して住める世の中であって欲しいと思うこの頃です(70代女性)。

・アンケート調査について家族より一言。本人は認知症で入所しております。スタッフの方にお願しました。本人は自宅が一番と思っております。それは十分わかりますが、家族には入所以前は昼夜妄想を言ったり、仕事場にも怒鳴り込み、かかりつけ医には日に何度も電話したり、通販に色々頼んでみたり、イライラすると物にあたりちらかしたり、夜中枕元でブツブツ言ってみたり、義父とケンカをしたり、以前仲よしだった方に一方的に文句を言った毎日でした。周囲の方々にも迷惑をかけました。色々な方面に相談しました。家族は追いつめられて入所という選択をしました(80代以上女性の家族)。

・自分が元気な間にダメと思ったら死んだ方がましと思う。安楽死をのぞむ(70代男性)。

・自分らしい暮らしの意味がわからない。老後はお金がかかる。お金がなければ、支援も受けられないのでは？観光事業に力を入れるのではなく、福祉にお金を使うのが本当なのでは？(40代男性)。

- ・自分の事ができれば最後まで家で生活したいと思います、家族にめいわくをかける様になった時は、病院、施設に行きたいと思っています。希望した時に、入れる事を希みます。ピンピンころりが目標です(50代女性)。
- ・だれにでもたよらなく自分自身で体の続くかぎり生活できるようにしなければならぬ。病氣しないように気をつけ楽しく生きよう(70代女性)。
- ・健康で長生きできるためには、人との交流は大事であると思います。外に出るには気が引けるものです。何か趣味を見つけて共通の友達をつくり、楽しむことがあれば良いと思う(60代女性)。
- ・歩いていける所に子供(わが子)が住んでいると心強い。自分で身の回りのことができる気力と体力が必要。近所付き合い(話し相手が必要)。金銭的不安や生活への不安でうつになる人が多いので、その予防が必要。老人ばかりの町(集落)にならないようにする。子供達の声がひびく町(集落)だと元気がでる(50代女性)。
- ・一番に健康であること。趣味を持って無理をせず楽しみながら生活をする。地域の人達と仲良く楽しいおしゃべりを。規則正しく毎日を有意義に過ごせる様に願っています(80代以上女性)。
- ・健康に注意してます。栄養を考えた食事、体力作りに歩く事や毎朝のラジオ体操等がんばっています(60代女性)。
- ・できるだけ長く自宅で生活することを願っていますので、受けられる医療や介護のサービスが充実していることに、老いをいきぬく手だてをいただいた思いで心強く感じました。今、私がかが一番気になるのは”心の問題”です。孤独にどう耐えていくのか、孤立がとて怖いです(70代女性)。
- ・本人の判断能力がしっかりしている時に、法定後見制度の支援内容等について理解しておくことが大切だと思う(70代女性)。
- ・今は妻と二人いるからどうにか暮らしているが、1人になったら施設に入りたいと思っています(80代以上男性)。
- ・人生の最後がどのような状態であるかわからない。自分らしい暮らして何かなあ一と考えてみてもよくわかりません(60代女性)。
- ・現在は2所帯であるが、一人暮らしと同じで全部別々の生活をしている。世帯が同じなので、一人暮らしの介護利用が受けられずに悲しい面がある(80代以上女性)。

【在宅医療・在宅介護に関すること】

- ・自分の体調に異常を感じたらすぐ受診(60代女性)。
- ・訪問リハビリテーション、訪問診療等、介護サービスの充実(70代女性)。
- ・介護が必要になった時に考えるのがトイレや風呂の介助です。それに合わせてリフォームもしないといけなくて、それに係る資金が気になります。主人が率先して動いてくれるのか？。それも分からないし、その時はどうなるのかなあ？(60代女性)。
- ・認知症が重くなくひどい病気がなければ、自宅で最後までと望んでますので、訪問診療、訪問看護などその時の状態よりいろいろな自宅で受けられる医療・介護サービスを受けたいと思います。人生の最期は少しぐらい不自由があっても自宅でと望んでます。できればそれらのサービスを利用するときの料金が低い方が何回も利用できると思います(60代女性)。
- ・まずは訪問介護が必要だと思います。掃除や買い物等、出来ない事をしていただき、通院が困難になれば訪問看護が必要になると思います(60代女性)。
- ・夫婦二人で一方が元気な場合は、何とか支援の中でやりくり出来るかもしれません。もし一人になった場合、子どもに負担をかけたくない(70代女性)。
- ・独居でなくても高齢の夫婦で自宅で生活している人々が(いずれ自分もそうなるかもしれないので)不自由なく生活できるようサービスを受けられると良い。高齢なのに、二人で生活されているからと支援が後回しにされるように困ります(40代女性)。
- ・死ぬまで責任をもって下さるお医者さんにめぐり会いたい！！(家にこまめに来て下さって)(80代以上女性)。
- ・一人暮らしのため、なるべく自宅で生活したいため通院介護や生活支援を受けたいです。今は月2回の元気サークルと月1回の民生委員さんの訪問が楽しみです(80代以上女性)。
- ・家族だけでは共倒れになってしまいそうで、福祉の方々にお世話にならざるを得ないと思う。夫の事は自分が元気なときはなるべく頑張ろうとは思っている(70代女性)。
- ・スーパーマーケット等の移動販売。道路の整備。バリアフリー(自宅改築)設置の補助(50代男性)。
- ・今親の介護で毎日ふりまわされていて、デイサービス、ショートステイの利用は、とても助かります。体の自由がきかなくなってくると、イライラがつのり、家族にあたりたり…。自分の子供達には、こういう思いはさせたくないの、公共の支援を利用できるとありがたいです(60代女性)。

- ・もし私自身が病気になった時に心配するのはお金の事だと思います。訪問医療や介護サービスを受ける為にはお金の心配が一番考えさせられます(50代女性)。
- ・現在自宅で生活していますが、週1回ヘルパーさんの派遣していただいています。掃除、洗濯の介護していただいて、私本人も活適な生活しています(70代女性)。
- ・訪問看護と訪問介護の充実(60代男性)。
- ・家族を介護する時になったら、介護する側も仕事に行けなくなります。安定した生活を送れる制度があれば、安心して家族を見ながら、また支援を受けながら介護が出来るのかなあとと思います(40代女性)。
- ・デーサービスを受けながら自宅で介護している意見
自宅での介護する場合、夜間の対応が最も心配です。病気の時は救急車で対応できますが、トイレや食事、入浴などは必ず行わなければなりません。介護者の睡眠不足や病気などどうしようもない時も、結局、家族の対応になってしまいます。大切な家族なのに、介護で疲れ果ててしまいます。認知症者の家族の心身のケアも考えてもらいたいと考えています(50代女性)。
- ・各種支援サービスを受けるにあたり、費用面での負担がどれ位かかるのかが不安である(70代男性)。
- ・かかりつけ医を決めておき、何か異常を感じた際に相談(医師に)する事のできる関係性を構築しておくべきと考えます(40代男性)。
- ・医療・介護での訪問サービスについての認知度が低いと思います。そのため、その地域にどのようなサービスがあるのか、もっとみんながわかるように情報を伝えるようにしてもらえばと思う。例えば、回覧板、市報、地域の新聞等、大々的に情報を流す等(40代男性)。
- ・家族(同居)だけでの介護は無理があり、自宅で受けられる医療・介護サービスは介護者にとって強い味方です(50代女性)。
- ・1買い物の手伝い、2病院の送り迎え、3金銭のもんだい(70代男性)。
- ・誰もがこれから向き合う問題なので、相談の窓口をわかりやすく、多く設けていただき、介護施設、医療機関との連携もしっかりつなげていってほしいと思います(50代男性)。
- ・医療と介護の連携(40代女性)。
- ・家族が通常生活が送られる様な、サポートがあれば自宅等で生活出来ると思います(50代男性)。
- ・その時に必要になるいろんなサービスを、あまり費用がかからず利用できればいい。年金もそんなに多くもらえないと思うので、費用面でも子供達やほかの人の負担にならなくていいようにしてもらいたい(50代女性)。
- ・後期高齢の独居者です。排泄が自立の間は自宅で生活したいと思っています。その為には、家事援助や病院受診が低料金でサービス受けられたら良いなと思います(70代女性)。
- ・ホームヘルパー等の介護支援、医療機関の訪問支援が充実する事です(60代女性)。
- ・年金生活者なので費用が心配。どのサービス、このサービスを受けて、どの位かかるのか金銭面でとても心配します(60代男性)。
- ・母は5年前に他界しました。10年前脳梗塞でたおれましたが、それまでは要支援の介護サービスを受けていたので、退院後スムーズに自宅で生活することができました。かかわっていただいた方々(ケアマネジャー、住宅改修業者、デイケアの職員)のお陰だと感謝しています。亡くなる5日前まで自宅で過ごせました。要介護5でした。娘の私も仕事ことができました。父が食事の介護をしていました。介護保険制度の充実さを感じています。父の場合も、自宅で過ごせることを願います(50代女性)。
- ・自分で食事や排泄入浴、移動ができなくなった時は、家族ではなく、プロの手を借りたい。家族が介護を頑張ってもお互いにしんどいと思う(50代女性)。
- ・介護してみて思ったのは、最後までは無理だと思いました。1人でみるのは特に無理です。私はケアマネジャーさんにとっても良くしてもらったので、楽に介護に取り組みましたが、マネージャーさんがもう無理せんが良いよ！！って言うっていただき、施設に入れさせてもらいました(50代女性)。
- ・家族が病気の時は、自分の力で出来るだけの世話をあげたいと思っています。自分の病気の時は、家族に迷惑をかけるのが心苦しい為に施設などでお世話になりたいと思っています(70代女性)。

【延命治療・看取りに関すること】

- ・家族が自宅で安心して最期を迎えられる為に、介護する家族が経済的にも安心して介護休暇を取れる様に整備が進むと良いと思います。自分の意志を伝えられる時に、家族や信頼できる人へ最期はどの様に迎えたいか話し合いをする取り組みを進められると良いと思います(50代女性)。

・自宅で看取る事の大変さは身にしみて分っているつもりです。その分、子供には負担をかけたくありません(70代女性)。

・家族に対する延命治療については、自分は”NO”と想着いても、同じ兄弟、姉妹、息子、娘それぞれ思いが違ふことを自分は経験した。なので、日ごろから、そこは自分自身できちんと意思表示する必要があると常々考える(60代男性)。

【認知症に関すること】

・認知症になる前に自分の生活を老後どう生きていきたいか等を家族に話していくことが大切であると思う(50代女性)。

・認知症にならないように人との交流を大切にする(60代女性)。

・地域みんながやさしく見守りながらせつしてもらいたい(80代以上女性)。

・近所の人との会話。自分の趣味、楽しみを持つ。認知症には絶対にならない様にしたい(70代女性)。

・もし認知症、重度の病気になった時、家族だけでなく、地域全体の理解と日ごろからの醸成が必要です(70代男性)。

・軽度の認知症の場合でも、近所の助け合いが一番必要と思います。本人自身にもプライドがあり、まちがいを認めないで自分の主張(まちがいの)を言うばかりで手に負えない人もいます(80代以上女性)。

・認知症の人の世話は本当に介護する家族の精神的負担が大きいので、介護する人の心のケアが必要だと思う(60代女性)。

・義両親が認知症になり、家族間、また兄弟間でも様々なトラブルが生じ、とても大変な思いをしました。そのとき、ケアマネジャーの方がとても助けて下さり、勇気付けられました。ショートステイ、デイサービスを紹介して頂いたり、いろんな悩みも相談できました(50代女性)。

【地域とのつながりに関すること】

・近所の人々と助けあひながら生きていきたいと思ひます。そのために地域の人々とふれあえる環境が整備されることを願ひます(50代女性)。

・医療・生活上の利便性の充実が必要。地域や周囲の人とつながるツールをそれぞれ持てるような施策があれば良いと思ひます(60代女性)。

・近所の人とのコミュニケーション。つどいの場・月1回位のお茶飲み会。バスの運行(100円バス)。花、苗を通じていやしの場をつくる(*花・苗の配布等)(70代女性)

・人とのコミュニケーション。近所づきあひ(60代女性)。

・ちいきの人となかよくしていくこと(80代以上女性)。

・地域の繋がりをも密にする(70代女性)。

・いつも誰かとつながっているという安心感がほしいと思ひます。ネットを活用した見守りシステムのようなことが実現できればうれしいです。担当の方も一人ひとり電話したり、訪問をされたりする手間が多少軽減されると思ひます(50代女性)。

・周囲の方々の理解協力が必要と思ひます(60代女性)。

・地域の声掛けあひ等、孤独にならない様にしたいものです(60代女性)。

①地域コミュニティの交流及び民生委員の地域生活者との普段からの積極的な交流の機会が必要です。②コミセンの形式的催しでなく、幅ひろい世代が自然に参加できる催しを検討すべきです。③コミセンの地域に対する役割の周知を図るべきです(50代男性)。

・身体が動く間はいいが、少しずつおとろえたら、やはり市や地域の協力が必要だと思う。でも言えない人もいるから、気をつけてやるべきだと思う(60代女性)。

・近所付きあひ又友人とのコミュニケーション(60代男性)。

・民生委員さんが毎月訪問して下さいますので、本当にありがたく思ひています。民生委員さんは大変でしょうが、これからもよろしく願ひます(70代女性)。

・隣組、地域でのコミュニケーション。しかしだんだん行事もなくなり、疎遠になりつつあります。地域の方で力合せて取り組むことが楽しいと思える行事ができるといいと思ひます(40代女性)。

・ご近所同士の声かけや見守り(自然な形で)ができれば、民生委員さんたちの負担も軽くなるし、楽しい老後がおくれると思ひます。食糧など生活に必要なものがあると安心(スマホなど使わず、簡単で安価な宅配サービスなど)(50代女性)。

・現在の自分の状況を正しく近所の方々に知ってもらうこと。・家族のいない時間に何かあっても、近所の方、または専門の機関に連絡がついて助けてもらえること。・誰かひとりに迷惑をかけるより、みんなに少しずつ迷惑をかけながら生きること。・最期まで自分も誰かの役に立っていると思えること(50代女性)。

・医療保険・介護保険などの公的な支援システムだけでなく、地域で支え合うような、身近でほんの少し手助けを必要とする方をサポートするような体制があるといいと思います。ゴミ捨てを一緒にするとか、買い物と一緒にいくとか(40代女性)。

・集落ごとに見守ってくれる人(区長、婦人会長さん)がいれば少しは安心できると思います。ご近所付き合いの大切さが必要で、気軽にたのみ事ができる関係性を築いていきたいと思いました(70代女性)。

・父は実家で一人で暮らし。一人で暮らすという事は、不安や淋しさもかなりのストレスになってると思うのですが、幸い、近所の人々の声かけや交流等が、父の気持ちを前向きにしてくれているのだと実感してます(70代女性)。

・地域での見守、行政の定期的な訪問(60代男性)。

【環境・移動に関すること】

・まずは、気軽に運動ができる公園ができるといいなと思います(40代女性)。

・移動販売があればそこで話したり、仲間が日々集まる機会が増えて生活に希望が持てると思う(60代女性)。

・車の運転できる間は大丈夫ですが、いつどんなになるかわかりませんが、交通の不便な場所に住んでいるので、病気の時は困ります。その時は相談したいと思います(70代女性)。

・運転免許返納したら買い物、病院行くのにどうしたらいいの？。タクシー使うにしても年金が少なく経済的にきびしい(50代男性)。

・通院する病院が遠くて交通費がなくて通院できない人もいます。心づかいをおねがいします(50代男性)。

・高齢者の自動車免許返納が出てきて、元気な高齢者も生活の足がうばわれている。家にこもりがちになるし、通院、買い物等の不便を感じてある方も多いようである。高齢者の足(交通手段)を確保してほしい。家にこもりがちな高齢者に、仕事、外に出る機会を多く与えてほしい(40代女性)。

近くに生活用品を買う店がない。もし車に乗れなくなった時の生活が心配。大型店ばかりが増え、昔ながらの商店があればいいと思うようになった(50代男性)。

・今は未だ車の移動が出来る状態だから困ってないけど、近い将来出来なくなったら移動手段がなくなり、往診や訪問看護が必要になると思う(70代女性)。

・高齢者が通院する際の交通手段が柳川市は不便である。送迎バスの台数を増やして欲しい。今後、高齢者が増える上、免許返却が多くなると予想されると思うので、無料バス等を増便して欲しい(60代男性)。

・今障害を持った子供と生活しているが、経済的理由で車を持たず、私はもらったバイクで移動できるが、子供の方はタクシー移動しかできない。郡部は都市部と違って「交通」というか「移動」の問題が悩み。災害避難時はどうしようかと思う。問いの答えにはなっていないが(70代男性)。

・年をとって車の運転ができなくなり、行動範囲が狭くならない様、市中どこでも行ける交通便にしてほしい(60代女性)。

・私の住んでいる地区には支援バスが来ません。できれば、どの地区にもバスを走らせてほしいと思います(50代女性)。

・近くにお店がなく交通も不便です。年をとり車の運転も出来なくなったらどうなるのか不安です。100円バスもどうなっているかも不安。本数や乗降するところが近くにあるかなど、いろいろ住みやすく安心できるようにお願いします(60代女性)。

・交通の便が悪い(電車駅迄遠い、バスも通らない)。・店舗が少ない。・どこへ行くにも車が必要に成る(70代女性)。

・いつまで運転できるかわかりません。交通機関、タクシー等の補助、自分で病院や買い物に行ける様にしてほしい(70代女性)。

・今後車の免許証の返納による公共交通機関の充実！。堀、河川サイド等にウォーキングロードの整備。近くに四季の花木を楽しめる公園、おやつやお茶を楽しめるベンチ等あれば尚良い。足腰が弱ってきても外出したくなります(70代男性)。

・免許返納後の買い物や病院通院の方法・手段(タクシーだけでは金銭が続かない)。一人暮らしの高齢への支援(50代女性)。

・いずれ運転免許証返納の日が来ると思う。問題は通院、買い物(在宅の場合)がまず第一に心配です(70代男性)。

・病院への送りむかえ(70代女性)。

【施設入所に関すること】

・認知症になった時は、優先的に施設に入れるようにしてもらいたい。認知症になったら家で見るのは無理があると思う(60代男性)。

・今母が認知症で自宅介護していますが、安い年金で入れる老人ホームが少なすぎる(50代男性)。

・認知症になったら自宅での生活は無理になると思います。年金内で入院や介護施設に入所できると家族に迷惑をかけずに暮らせますので、そうなって欲しい(60代男性)。

・デイサービス、施設へのスムーズな入所。病院との連携、待機がない福祉の利用(60代男性)。

・介護施設等の入所費用が高額だと聞きます。年金が少額の方でも入所出来るようになれば家族の負担もなくなると思う。家で介護を必要となれば、仕事を辞めなければ介護は出来ないが、現実的に考えても無理です(50代女性)。

・認知症への支援・介護等については様々な支援が実施されている中、現実問題として施設利用における”待機”が挙げられる。認知症者が入居できる施設の増、介護する家庭の支援・ケアにもっと救いの手がほしいです(50代女性)。

・介護保険を利用して頂いている母の時は1年を過ぎるとすぐ別の施設へと変わらなければならず、入所している本人も大変な様子で家族も大変だった。別の施設へと移転は本当に困った事が多かった。施設廻りは本当にいやでした。

・老人ホーム等へ入居するとしても、近所に自力で行ける範囲内に、文化施設(本屋、図書館、レストラン、映画館、喫茶室等)がないケースが多い。こういう施設を作る時には、老人にも文化的施設が必須であることを心がけて欲しい(70代男性)。

【医療・保険・年金制度に関すること】

・自分達は低年金所得者のため生活についてどう生活して行くかわかりません。この不安で一杯です(80代以上男性)。

・ヘルパーの資格がもっと気軽に簡単に取得できれば、訪問系のヘルパーも増えて、ほんとうに困っている家庭の手伝いができると思います(40代男性)。

・お金と健康が大切。ただし、社会保障は最小限にすべきである。また生活保護などの審査はもっときびしくすべきである。なければもっとよい。不正受給者が多すぎるようだ。社会扶助は見直すべきだ(70代男性)。

【相談に関すること】

・その時に(病気や介護)様々なケースに対して相談できる人、場所等があれば良いと思う(60代女性)。

・家族との絆、自分が困った事を何でも相談できる相手を持つ事と支援をしてくれる相手がいる事(60代女性)。

・困った時にすぐに相談できる環境があれば良いと思う(40代女性)。

・家族の支援、地域の方の見まもり、もっと身近に相談する所を解りやすく教えてもらいたい(60代女性)。

・家族以外で親身に相談にのってくれる方の存在。訪問介護や通所介護がわかりやすく受けやすい事(50代男性)。

・今後、生活するにあたって相談する人はいるか、何か困っていることはないか、等ハガキでもいいので、アンケート等を出せるようになっていると、相談しやすいです(50代女性)。

・ケアマネ次第で(サービス)相談などが全然ちがう(50代女性)。

・相談機関を知らない方もいると思いますので、どこに相談したらよいのかを知らせる方法を考えてほしいと思います(50代女性)。

・近くにスーパーがないので老後がかなり心配。病院もなく本当に大変だと思う。市役所の人をもっとちゃんとしたアドバイスを欲しい(40代女性)。

・福祉課の仕事は、8:30~17:00(?)だと思いますが、相談者はその時間に相談できない人が多くいます。他の企業のようにみんなが8:30~17:00という勤務ではなく、時間帯をずらして働いて下さると、さらに安心してらせるのではないのでしょうか。相談しようにも17:00をすぎるとアウトになってしまっていて(70代男性)。

・本当にこのアンケートで考えました。知らない事が多いです。こういう包括支援・・・というセンターがあることも(50代女性)。

・相談窓口がわからない。どこに、どのような相談をしてよいかなど具体的に教えてもらいたい。様々な手続きが複雑なので、簡単に説明して欲しい。認知症にならない為のサービスをもっとアピールして欲しい(40代女性)。

【地域包括支援センター、市への要望】

・行政(地域包括支援センター)に血の通ったことを相談を受けられるよう望みます。公報とか何かでは介護はひとりがかかえこまないで相談してとかありますが、結論は何もしてくれないということが、義父母や父をみとってわかったことです。だから行政には期待していません。おごりな相談をうけないように(60代女性)。

・地域包括支援センターで行われる支援の内容相談等の個人で参加できるセミナーを行ってほしい(80代以上女性)

・市役所の方々の対応が親切でないと感じる事が多々あるので相談しようと思わない。もっと親身になってくれると頼ることこともあるかも(40代女性)。

・独居になっても、可能な限り、自宅で自立して生きたいと思っていますが、その為には、家事の補助や買い物、通院等の援助が必要ですが、必要な時に必要なだけの支援が十分に得られる行政の支援体制を望んでいます(70代男性)。

・身体機能の向上の知識取得の為の機会を増やしていただきたい(60代男性)。

・このアンケートは何が目的ですか。支援センターのスタッフは本当に心から支援しようと思ってますか。介護保険のサービス利用をもっと広げるべき(60代男性)。

・特別養護老人ホーム等を増やしてほしい。子供達の為にも(40代男性)。

・家族に迷惑をかけられないので、自治体には更により支援をしてほしいです。私は50代ですけど、80代ではなかなか言うことを聞いてくれない、考えがらがう、こういう人の指導もよろしく願います(50代女性)。

・金銭面の支援。どこを頼れば良いのかまず分からない。若いうちからそういった事を学校の勉強とかに盛り込んでほしい(40代女性)。

・町内会総代に付いて。私の町内会では総代(1年間)→総代会計(1年間)と2年間を輪番制で当番があります。高齢者のみの世帯では、体の不調、能の低下等々の為、大変な負担になります。この様な事情をお察し頂き、行政の方から意見援助を切願します。お願いいたします(70代女性)。

・事務的な対応でなく寄り添った対応を望みます(50代女性)。

・ケアマネジャーが中心となって、他の支援をどのように活用していくかアドバイスが欲しい。民生委員などの方の近所とのコミュニケーションがスムーズにいくように、間に入ってほしい(認知症で不燃物などのゴミの処理がわからなくなったり、毎月のようにある会合や、回覧板を次に誰に回すかわからない時などの時に)(60代男性)。

・本人は久留米市の病院に長期入院中である。柳川市への要望は、本人への郵便等、各課からの書類を個別に送るのではなく、代理人として依頼している住所へ確実に送付して欲しい(80代以上女性)。

【アンケートへの意見・要望】

・延命治療の設問にしてもあいまいすぎます。もう少し想像力をはたらかせたアンケートの作成を望みます。主人をガンでなくしつらい経験があるので、簡単にいえることではありません。病状、年令、いろんな条件があると思います。いずれを選択しても家族はつらいです。アンケートを作成した方はその経験がないと思われます。もう少し想像力をはたらかせたアンケート作成を望みます(60代女性)。。

・質問内容に具体性に欠ける部分が見受けられ、回答しづらいように思った(60代男性)。

・このアンケート、あまり意見はでないと思います。世代では、まだまだ親が居るので、自分達の事までは話が出ません(50代男性)。

【アンケートに回答しての感想】

・まだよくわからないので今からすこし勉強しないといけないと思った(60代女性)。

・いざ必要になった時慌てないように知識を身につけようと思います(50代女性)。

・アンケートに答える自分がまだピンときてないから、今から色々な事に向き合っ少しずつ自分も勉強しながら生活するんだらうなあと思いました(50代女性)。

・今夫婦二人暮らしで今は元気である為、そんな話は何にもせず、ただ今から年々歳をかさねていく中、二人の生活難しくなるとしたら、今からでもどうしたいか子供達とも話し合っておきたいと思いました。他県で仕事していますので、時々話してみたいです。ありがとうございました(60代女性)。

・ご意見・ご要望ではありませんが、このようなアンケートに気分が落ち込みました。あまりいい内容のアンケートではありませんでしたが、私なりに考えて真面目に回答しています(50代女性)。